

2021年2月22日～24日

第14回パーキンソン病・運動障害疾患 कांग्रेस(福岡)

WEB発表

脳血流 SPECT、DAT スキャンに診断できたレビー小体病の一例

渡辺病院 稲山 靖弘 渡辺 浩年

【はじめに】レビー小体病の診断には、ありありとした幻視、認知機能の低下、転倒しやすさ、抗精神病薬への感受性などがあげられる。しかしながら、実際の臨床場面では、特異的と思われる症状は少ない。その際、画像診断が、確定診断に有用な場合がある。今回我々は、軽度の認知機能低下の他に、幻視を認めた高齢者に、脳血流 SPECT、DAT スキャンを行い、診断を確定させ、薬物療法をおこなったところ、幻視が消失した一例を経験したので、若干の考察を加え報告したい。本発表に際し、発表の主旨を説明し、個人情報を取り扱いに留意し、本人、御家族に発表を同意を得た。また、開示すべき COI はありません。

【症例】80歳台、女性、レビー小体病

【現病歴】従来から高血圧、狭心症にて内科加療中。X-3年、「知らない人が家に入ってくる」「お金がなくなった」「家があらされる」

といい、近くの病院を受診し、脳 MRI を施行されたが、異常なしといわれた。

X年、めまい、耳鳴りを訴え、近医受診し、メニエール病と診断され、再度脳 MRI 施行するも異常なしといわれた。その後、自宅で、トイレに迷ったり、その後も同様の、被害妄想、幻視が持続しているため当院受診。

【現症】独歩にて診察室に入室。「困ることはない」といいながら、質問をつづけると「知らない人が、布団に座っている」という。

【検査】HDS-R: 23点、視空間認知障害:あり。SDS:29点、TUG:18秒、歩行、入浴、排泄は自立。振戦、固縮はないが、誘発にて固縮を認めた。Hohen-Yahr stage 該当せず、Barthel 指数:95。UPDRS partⅢ:17点、要介護1。

【視空間認知障害】

【内服薬一覧】

リバロ（2）1錠

アスピリン（100）1錠

プレミメント配合錠LD1錠

アムロジン（5）1錠 朝

【幻視】

【脳画像検査】 頭部 MRI にて海馬萎縮著明

【脳血流 SPECT】 両側の頭頂葉、楔前部、後部帯状回、後頭葉の血流低下を認めた。

【DAT スキャン】 左右線条体への集積は低下しており、有意な左右差を認めた。

【経過】 以上から、レビー小体病と診断し、被害妄想、幻視に対してドネペジルを投与したところ速やかに消失した。その後、被害妄想、幻視が再燃することも、認知機能の著明な低下もなく経過されている。

【考察】 今回、画像診断によって診断を確定し、ドネペジルを投与することによって速やかに症状が消失したレビー小体病の一例を経験した。